

# ネパール、ブータンでの事業展開について

丸新志鷹建設株式会社 代表取締役社長 志鷹 新樹

丸新志鷹建設は山間地での治山、治水、トンネル、道路工事といった山岳土木、あるいは標高3,000m級の立山、剣岳山頂での工事に強みを持つ会社である。当社は1992年にネパールのカトマンズに支店を開設して以降ネパールで事業展開しており、2011年からはブータンでも事業を行っている。当社が、どのような経緯でネパールに進出し、どういった経過を進み、現在はどのような事業展開をしているか紹介したい。

## 1 ネパール支店開設

ネパールは正式名称ネパール連邦民主共和国で、2008年に王制が廃止され、マオイストなど22の政党が乱立し、その一部が連立内閣を組閣しているが、新憲法の制定および総理大臣以下閣僚がめまぐるしく入れ替わる議会制民主主義の国である。東、西、南をインドに北を中国に囲まれ、面積は14万平方キロ（九州+北海道+四国）、人口約2,900万人、北緯27度（沖縄）、標高70~8,848mである。民族は48とも75ともいわれ、カーストが存在する。宗教はヒンドゥー教、イスラム教、チベット仏教などである。

1979年プロスキーヤー三浦雄一郎がエヴェレスト大滑降を敢行した時にサポート隊員として参加した立山町芦峯寺の立山ガイド佐伯富男がシェルパ族との交流を始めた中で、1991年立山芦峯小学校とヒラリー・クムジュンスクールとが姉妹校となる。クムジュンスクールのあるネパールクンブー地区は、標高3,800mあたりに位置し、その住民であるシェルパ族は優れた山岳ガイドであり、芦峯寺と共通点が多い。当社は「ネパールとシェルパの人たちに何か役立つ事はできないか」と、交流促進とこれからの国づくり支援の為、1992年にカトマンズ支店を開設した。

## 2 JAVADA研修生の受け入れ

1994年から中央職業能力開発協会（JAVADA）の研修制度（研修期間1年）を利用して、2004年までの10年間で88名のシェルパ族の研修を実施した。その一部は現在のネパール、ブータン事業の中心スタッフとして活躍している。

## 3 ネパール進出のハードル

1990年頃の日本経済は好調だったため、ネパールに支店を作ることに抵抗は無かったが、ネパール国内の政治的、経済的混乱により登記などの手続きを終えるまでに予想以上の時間がかかった。そのような中、初代の現地支店長が本社訪問の帰りにカトマンズ山中の飛行機墜落事故で亡くなった。現在の支店長は支店開設のきっかけを作ったクムジュンスクールの教頭先生であった人だ。

日本企業が素人支店長のもと、単独で公共工事を受注することは難しく、失敗続きの中で現地の支店長を経営者とする会社法人を通して入札、受注してなんとか仕事が継続できるようになったが、治安維持についての心配は常にあった。当時のネパールの状況は1997年頃から武装化した共産主義反政府組織マオイストが台頭しており内戦状態となっていた。小さな村を通行するにも、通行料金を何度も取られたり、治安のため破砕用の火薬の入手も困難になったり、工事現場でダンプカーが焼かれたりした。この間、西ネパールの道路工事と東ネパールで3,000kWの小水力発電所の土木工事を施工した。

支店開設以降2007年までの15年間の仕事はネパール政府、電源開発業者等からの小規模公共建築物、道路、歩行者用吊り橋、小規模水力発電所建設等の工事であり、その間受注が途切れることも度々あった。そのような状況での支店の維持、運営は行き詰まることもあったが、手持ちの建設機械をレンタルして賃料を稼いだりした。また、人

件費の安い現地スタッフ主体であったことも幸いした。

## 4 国際競争入札参加

2004年末、アジア開発銀行（ADB）融資によるメラムチ給水プロジェクト(首都カトマンズ内の上水事業)の取水施設までの22kmの道路改良事業を受注するため、初めて国際競争入札に参加した。入札参加資格の中で丸新志鷹建設の日本国内の工事実績を使って他のネパールの建設会社との共同企業体で落札した。この契約は2005年3月予定であったが、同年2月1日の国王によるクーデターのため2008年4月まで延期された。工事は実質的には当社単独で行ったが、道路沿線の地権者の同意が得られない区間が22kmのうち5km以上あり、さらには共産主義反政府組織マオイストの妨害にも遭い、予定工期は18カ月であったが、完成したのは2011年4月であった。実に2004年11月の落札決定から6年5カ月が経過していた。



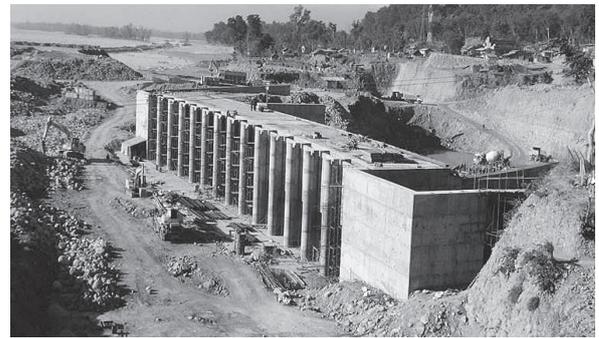
メラムチプルバザールへの道路

## 5 受注の拡大

メラムチ給水プロジェクトは当時の総事業費見積額が4億6千万ドルで水事情の悪化しているカトマンズ市民に非常な関心を持って見られていた中で最初の工事であった。また、日本の建設会社が様々な障害の中でまじめで誠実に工事を進めていることが度々新聞記事等で紹介され、当社はネパールの人々に知られる存在となっていった。

そんな中、2010年10月にカトマンズ西500kmにあるカルナリ川灌漑プロジェクト頭首工（取水施設）工事の入札に参加し、落札することができた。もともとこの工事は当該プロジェクトの始まりと

なる工事で、すでに8月に入札が実施され、中国の建設会社の落札が決定していたが、この建設会社の落札価格つり上げの不正発覚で再入札となったもので、メラムチ給水プロジェクトにおける当社の誠実な工事の評判から、発注官庁の灌漑省が当社に参加の要請をしたものであった。当社規模の会社にとって、10億円超の海外契約での工事履行保証、前払金保証提出には資金的な困難を強いられた。



頭首工

その後、2012年10月にカルナリ川灌漑プロジェクト関連工事を2件契約した。工事はネパールの悪癖、慣習の中での難しさもあるが、2013年6月には数十年に一度の洪水により完成間近の工事が被害に遭い、完成が1年近く遅れた。



完成直前の洪水被害



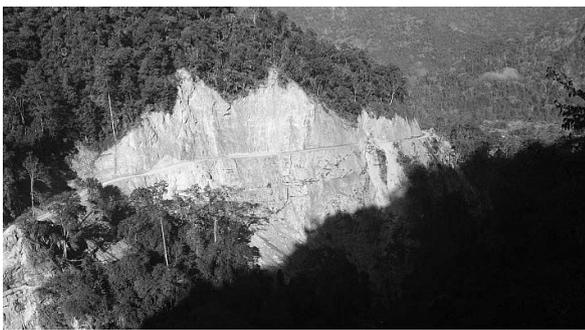
頭首工の完成

### 6 ブータンでの事業展開

2011年11月にブータンでアジア開発銀行（ADB）融資の3件、合わせて延長86kmの国道を新設する工事を落札した。この工事と同じADB融資のメラムチ給水プロジェクトの実績によって参加することができた。

ブータンは面積 38,394平方キロ（九州の0.9倍）、人口約70万人、首都ティンプー、宗教仏教、言語ゾンカ語・英語、民族構成人口の2/3がチベット系、1/3がネパール系、就労目的のインド人が5～10万人いる。

工事の現場はブータン南東部のインド国境近くにあり、ブータン国内の道路を利用しては辿り着くことができず、現場に行くにはインドの西ベンガル州、アッサム州を通過していく方法しかない。ブータンの地域ビザおよび就労許可証発行の審査は厳しく、ネパール人スタッフの現場乗り込みは契約の4カ月後となった。施工箇所の標高は150mから1,500m程度とブータンとしては比較的低く、インドから続き野生動物が豊富に生息するマナス国立公園に隣接し、6月から9月までの雨季には非常に雨の多い地域である。



パンバンへ向かう道路

工事スタッフは日本人、ネパール人、ブータン人、インド人作業員で構成され、2015年10月完成を目指して進められている。現在、その品質、仕上がりにおいてブータン政府、ADB視察官の高い評価を受け、モデル工事として、政府道路技術者が度々研修に訪れている。

また、ブータンの国王、首相にも当社の工事の素晴らしさが認知されている。



新西岡橋完成式で国王夫妻、首相と当社スタッフ

### 7 今後の事業展開

現在、ネパールで進行中の工事はカルナリ川灌漑プロジェクトの5.6kmの幹線水路工事と枝線水路の近代化工事の2件（2017年末完成予定）である。また、一昨年に受注した日本国際協力システム（JICS）無償案件の学校建設資材調達支援プロジェクトに続き、昨年11月に国際協力機構（JICA）無償案件のネパール西部地域小水力発電所改善工事を受注して、着工したところである。

今後はネパール政府発注案件と日本のODA案件を区別せず、その時々々の状況を判断しながら受注していきたい。また、一昨年より日本の他産業のネパール事業展開に対して当社へ現地調査や協力の依頼が来ており、それらも今後の事業展開の一つと考えている。

さらにブータンでは日本企業からブータン国内での環境インフラに関連した工事依頼が昨年より数件来ている。それらの依頼も受けながら、これからはブータン政府による道路の新設プロジェクトが数十年続くといわれる中で、持続的な受注に努力していきたい。